

令和6年度 上大岡小学校 学校経営方針

ぐん👉ぐん👉 「自分で考える、すすんで行動する」
にこ👉にこ👉 「たがいに認め合う、支え合う」
きら👉きら👉輝く 「夢に向かって動き出す」 上小の子

一人ひとりを大切に、
誰一人取り残さない教育活動を
チームでつくりだします

第4期横浜市教育振興基本計画 3つの視点

一人ひとりを大切に…

～本気で「誰ひとり取り残さない」を実現～

特別な支援が必要な子ども、日本語指導が必要な子ども、不登校の子ども、口には出せないけれども苦しみを抱えている子どもも。

26万人全員の個性に応じた「成長」を大切にします。



みんなの計画・ みんなで実現

先生が一人で抱え込む教育は限界。
学校の子カラ、家庭・地域の子カラ、企業・NPOの子カラ、
子どもの成長に関わるみんなの力を結集して、
みんなではまっ子ははぐくみます。



経験・勘 × データ

先生が培ってきた経験・勘にデータをかけ合わせ、
より確かな子どもの理解、
早期の子どものサイン発見を実現します。

EBPM*の推進

*Evidence Based Policy Making エビデンスに基づく政策形成



第4期横浜市教育振興基本計画



第4期横浜市教育振興基本計画のポ
スター～わたしの、あなたのため～



～学習の力

令和6年度版 これでわかる横浜の教育



第4期
横浜市教育振興基本計画

令和6年度版
これでわかる横浜の教育

クラスや学校、市の平均点の比較にとらわれず
一人ひとりの学力に応じて「伸ばす」教育へ。

「学力」[※]の平均値が高い学校≠「学力」を伸ばす学校
どの学校も、子ども一人ひとりの「学力」を伸ばすことができる!!



※「学力」…横浜市学力・学習状況調査における、学習の理解や習熟の状況
出典:「令和4年度横浜市学力・学習状況調査」

「学力」の伸びを最重要指標の1つに掲げる取組は初の試み

今年度も本校はこの地域のよさを活かし、子どもファーストで、
保護者や地域の方々と連携・協働しながらよりよい学校教育をつくり、
未来が幸せになる子どもを共に育てていきます。

2-2-11

令和6年度 学校経営方針

学校教育目標



ぐんぐん 「自分で考える、すすんで行動する」

にこにこ 「たがいに認め合う、支え合う」

きらきら輝く 「夢に向かって動き出す」

上小の子

の実現に向け、上大岡の教育活動を全教職員でつくります。



2212

上小の教職員は、日常的に子どもの思いや願いを聞き、チームで教育活動の運営・改善をします。
上小の子どもは、誰一人取残されず、自ら学習や生活の改善ができるようになります。

- 誰一人取り残さず、一人ひとりに目を向け、子どもの目が輝き、脳がアクティブになっている学びづくり（遊びは学び 学びは遊び、自立した学習者）
- 本時（単元、題材）のめあてに照らして学びの改善、指導の改善を図る
 - ・ C → 自己調整の仕方を指導
 - ・ B → さらに伸ばす
 - ・ A → 全体に広げる
 - ・ よい点や可能性、進歩の状況等 → どのように伸びたか積極的に伝える
 - ・ 子どもが学びを振り返り、次の学びに向かうことができるようにする
- 単元（題材）ごとに学習評価を総括し、振り返り、次の学習・指導に生かす
- 学習指導要領の目標・内容・指導事項を、上小の子の実態に応じて指導
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

「目を合わせる」 多様な人と直接関わる経験
相手とつながる、息を合わせる、安心感

「あいさつ」 明るく、いつも、先に、続けて
かわり、つながりを広げる

「名前」 漢字で字配りに気を付け丁寧に
自他の尊重、見通し・振り返り、学力向上

「時間」 子どもは見通しながら自己調整
メリハリ、構想する力、キャリア形成

学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実により、子どもも、教職員も、保護者も、地域も「ぐんぐん にここに きらきら輝く」姿になることを目指します。

「学年・ブロック担任」チームで子どもの学力向上と心の安定を

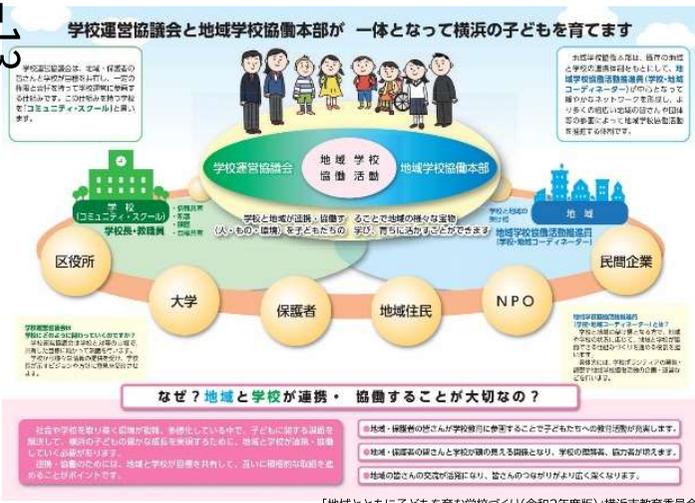
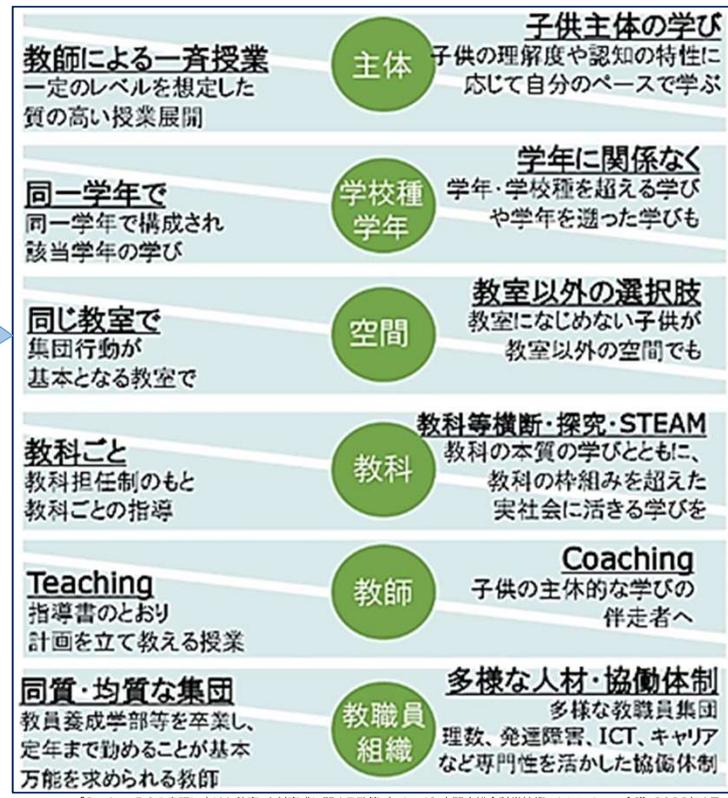
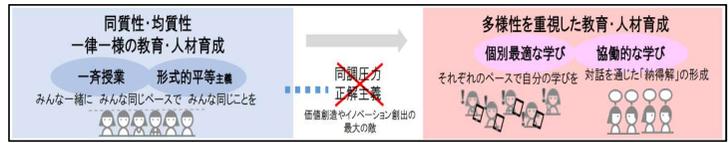
誰ひとり取り残さず資質・能力を育成。原体験からの脱却、現状維持バイアスの払拭。報告・連絡・相談・確認を徹底。

三つの資質・能力



教室には、発達障害のある子ども、家で日本語を話す頻度が少ない子ども、家庭環境への支援が必要な子ども、不登校傾向にある子どもなど、様々な背景をもつ子どもが存在している。

学校教育における学びの「時間」と「空間」も多様化していくことが求められている今、本市では、子どもたち一人ひとりに光を当て、誰一人取り残さない教育を実現していく。



右側へシフトするように教育活動の運営・改善に努め、「そろえる」教育から多様な一人ひとりを「伸ばす」教育を追究します。

学級担任から学年・ブロック担任へ
学級を超えて学年の子どもとして日常的な関わりを生み出し、チームとして子どもたちを育むことを大切にします。困っている子どもに学校全体で寄り添います。

目を合わせ、顔を合わせる関係づくり
学校だけではなく、家庭や地域でも、目を合わせ、顔を合わせ、対話できる関係づくりを。ご家庭でも、お子様と目を合わせて話す時間を大切に。

「地域とともに子どもを育む学校づくり(令和2年度版)」横浜市教育委員会



ぐんぐん にここに きらきら輝く上小の子・教職員・保護者・地域

「Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」内閣府総合科学技術・イノベーション会議、2022年6月